

音の輪・音の和



一般社団法人
兵庫音楽療法士会

2021年3月発行 No.11

『未曾有の事態』



一般社団法人兵庫音楽療法士会
事務局長 増井 まり子

こんな状況になることを、誰が予想したでしょうか。目に見えないウイルスに怯え、理性、寛容が失われ、殺伐とした空気が流れ、痛ましい事件の連続… 心が荒みます。

2019年暮れに発生した新型コロナウイルスが、年明けから日本でも流行し始め、年度末の煩雑な事務作業に2020年度に向けて理事の改選が加わる中、先の予定が決められない状況に陥りました。

2020年4月7日から5月6日まで兵庫県に緊急事態宣言が発令され、予定していた日程はことごとく変更になり、運営会議も慣れないリモートでの開催となりました。研修会等で利用している兵庫県福祉センターの貸室も利用制限が設定され、2021年3月までの研修会は全て中止にしました。事例研究会は兵庫県音楽療法士認定更新申請に必要なため、人数制限をして消毒・換気に注意を払いなんとか開催しましたが、落ち着かなかったのを覚えています。次期理事予備選挙は初の郵送投票としましたが、開票日は延期に次ぐ延期で選挙管理委員も気が気ではなかったと思います。定時総会は人数制限をして短時間での開催とし、監事の出席

をお願いする理事会は書面決議としました。

音楽療法の根幹を揺るがず生活に変わり、私たちの現場が閉ざされ、未だに復活できない方も多くいます。ソーシャルディスタンスを守ることは他者との接触を制限されることであり、その上歌うことを自粛すると、音楽療法がなんと儂いものかと無力感に陥りました。当たり前前に暮らしていたこれまでの生活が大幅に制限され、新しい生活スタイルを受け入れるだけでも不安な上、音楽療法がこの先どうなっていくのか全く見当も付かず、殆どの音楽療法士が精神的に苦しい状況に迫りやられたのではないのでしょうか。収入減となって心細く感じている音楽療法士も多いと思います。

そんな中で、感染対策を考え音楽療法の実施が可能と判断された施設、事業所などが少しずつ再開してきているようです。私も再開依頼のあった施設に徐々に伺い、いつもの曲を弾くと、まるで中止期間などなかったかのような対象者の様子にこちらの緊張も溶けて、すぐに元に戻れる《音楽の力》はすごいと改めて感じました。高齢者領域や病院での再開はまだまだ厳しいようです。一日も早い新型コロナウイルスの収束を願って止みません。まずは元気で、音楽療法士として今できることは何かを考えて、向き合っていきたいと思っています。この広報誌が配布される頃は、今より状況が好転していることを祈ります。

もくじ

- 「未曾有の事態」 …………… 1
- 2020年度研修会・事例研究会事業 …… 2
- 音楽療法普及・定着強化事業 …………… 2
- 各種団体依頼コンサート …………… 3
- 楽器紹介&音楽の豆知識 …………… 3
- コロナ禍の音楽療法 …………… 4、5
- 20周年記念式典のお知らせ …………… 6
- information …………… 6
- 新理事体制のご挨拶 …………… 6

2020年度 研修会・事例研究会事業

8月・事例研究会

山田 由紀子 氏

音楽療法グループ アン・ディ・ムジーク代表、
西宮音楽療法研究会理事

12月・事例研究会

福井 圭子 氏

日本音楽療法学会認定音楽療法士、兵庫県音楽療法士

※2020年度は、9回の研修会（うち7回は公開）と3回的事例研究会を企画しておりましたが、新型コロナウイルス感染予防のため、記載以外の研修会・事例研究会は全て中止いたしました。



音楽療法普及・定着強化事業

令和2年度も前年に引続き、音楽療法普及定着の為「県内参加型コンサートの実施」や「お試し体験補助」「定着促進補助」の三事業を計画しておりましたが、新型コロナウイルス感染防止の観点から「県内参加型コンサート」は全て中止する事になりました。楽しみにして下さった皆様には大変申し訳なく思っています。コロナ禍が落ち着き、コンサートができる状況になりましたら、また、色々な地域で開催したいと思えます。

令和2年度の新規実施施設数は、例年より大幅に少ない状況となりました。前年度に比べ、「お試し体験補助事業」は約5割、「定着促進補助事業」は約3割弱の利用でした。特に高齢者施設への新規導入は少なく、2割に満たない状況でした。（別表参照）

以前より音楽療法を導入いただいている施設でも、未だ中止・延期の多い状況です。新型コロナウイルスの収束や安全な対応が確立できる迄この状態は続くと思えますので、今、私達に出来得る限りの感染防止策を施設担当者と共に考え実践していく必要性を強く感じています。

この様な状況下でも「音楽療法が必要」と令和2年度に新規導入をご依頼いただきました施設の皆様には大変有難く、心よりお礼申し上げます。

今後は、新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、新しい音楽療法のあり方についても模索しつつ、同様の補助事業を継続し、多くの方々に音楽療法をご体感いただければと考えています。

【別表】



尚、令和3年度の音楽療法普及・定着強化事業の実施に関してや音楽療法の新規導入をお考えの際には、当会ホームページをご覧ください。

各種団体依頼コンサート

令和3年1月10日神戸市総合福祉センターにて、「木の芽家族会新春懇親例会」の中でトーンチャイムを主にしたミニコンサートを行いました。

（公社）兵庫県精神福祉家族会連合会の事務所は当会と同じ兵庫県福祉センター内にあり、「以前聞こえてきたトーンチャイムの音色が忘れられず、演奏をお願いしたい。」と直々の依頼がありました。木の芽家族会では徹底的な感染予防をして勉強会を開かれていて、当日も約30名の参加者が出迎えて下さいました。



「冬メドレー」のトーンチャイムの音色に熱心に耳を傾け、知っている曲が流れると、マスクの下から口ずさむ声も聞こえ、実際にトーンチャイムを体験していただくコーナーでは、鳴らす箇所を確認するほど積極的で、「もう一度やりたい!」と声上がるほどでした。リズムカルな曲での身体活動でも、「徐々に体を動かせたね」と顔を見合わせる光景も見られました。後日、「木の芽家族会」の代表の方から、「トーンチャイムはヒーリングの音色ですね。また会場とのやりとりがとってもフリーリーで皆さん安心して楽しんでくれてましたね。感謝です。」とお言葉をいただき、私たちも久々に「音楽を介して」皆さんと同じ空間を共有できたことに感謝する一日となりました。



楽器紹介 & 音楽の豆知識

【楽器紹介】

●キシローナ (XYLONA)

キシローナは Naef (ネフ社) のクルト・ネフ氏がデザインを担当し、イタリアの玩具メーカー IL LECCIO (イル・レシオ社) が製造したユニークな鉄琴です。

クルト・ネフ氏は晩年障害を持つ人が楽しめる玩具の創作に力を入れていました。小さな子どもや障害のある子ども達にも、音遊びを心から楽しんでほしいと考えられた鉄琴が「キシローナ」です。

初めて楽器に触れる小さな子どもや障害を持つ子ども達はバチを使い、決められた音を鍵盤で叩くのは難しい為、幅広く親しめるような構造の楽器になっています。まず、楽譜が読めない人や、バチでの演奏が難しい子どもでもわかりやすい、音別にカラフルな色のスティックをつまんで落とすだけで、綺麗な澄んだ音での演奏が楽しめます。

また、つまみはネジ式になっていて、音の強さを調節できるので、演奏がまだ難しい小さな子どもには、ファ(F)とシ(B)の音を出さないようにネジで調整し、ペンタニック音階(ドレミソラの音階)にしてどの音を鳴らしても素敵なメロディを奏することができます。

他にも鉄琴は取り外すことが可能で、付属の2本のバチで通常の鉄琴としても演奏できます。



【音楽の豆知識】

●誰もが認める名曲の創造者 ベートーヴェン

2020年12月16日はベートーヴェンのアニヴァーサリー・イヤー、生誕250周年記念日となります。

クラシック音楽とひとくくりにしても、好みは人それぞれで、聴き手は限られたジャンルにとどまることが多い中、ベートーヴェンの交響曲は日本人には人気が高いです。

ベートーヴェンの交響曲は九曲あり、有名どころでは『運命』『第九』『英雄』などです。

いくつか残されたベートーヴェンの肖像を見ると、その多くは彼の交響曲と同じように英雄的で、カリスマ性を感じさせ、私たちが期待する作曲家そのものです。

ベートーヴェンがヒーローとされるのは、作品から受ける印象に加えて、聴力を失いながらも不屈の精神によって傑作を書いたという史実が大きく影響しているようです。

耳疾(じしつ)の最初の兆候が表れたのは20代後半。32歳のとき、あまりの絶望から遺書を書いています。

しかし失意のどん底から鮮やかに復活し、交響曲『英雄』やピアノ・ソナタ『ワルトシュタイン』『熱情』など次々と傑作を生みだします。

晩年、ベートーヴェンは聴力をほぼ失います。53歳で大作『第九』を初演したとき、舞台のベートーヴェンには聴衆の拍手が聞こえていませんでした。アルト歌手がベートーヴェンの袖を引いて、背後の聴衆を指し、ベートーヴェンは初めて喝采に気づいたといわれています。

ベートーヴェンは仕事に打ち込むことによって、絶望から立ち直った。それが真のヒーローとされるゆえんなのでしょね。

※参考文献「この一冊で読んで聴いて10倍楽しめる!クラシックBOOK」飯尾洋一著

～現場の声を聞いてみました～ コロナ禍の音楽療法

コロナ禍で昨年から「音楽を介して人と繋がる」私たちの活動も制限されました。会員同士の情報交換の場を設けることも難しく、現状を伝える一助となればと、音楽療法の実施を再開、続行できている会員の中から7人の声を聞きました。コロナ感染状況が刻々と変化中のある時期の一例であることをご理解いただきますようお願いいたします。

なお、各施設等にはご理解、ご承諾を得たうえで掲載しています。

【高齢者領域】



コロナ前→20～25名 歌唱や身体活動、楽器活動を中心に約50分のセッション

コロナ後→約15名 セッション時間は約40分 間隔をあけて着席

施設に入り検温、施設が提示する書面に名前・体温・来園時間・自分の症状などの項目にチェックを入れて提出。次に手洗い・うがいをして準備し、施設内はマスクを着用して移動。ピアノやホワイトボード等、何か手に触れる度に極力手洗いを実施。楽器は使用前後に消毒、使い回しはしない。

感じたこと→利用者がマスクをして歌唱しているので、様子が分かりにくい。マスクを嫌がる利用者が数名いる。また、セッション時間を短くしているため、利用者から「もっと歌いたい」という声を聞くと、申し訳なく思う。

職員からの声→「音楽療法以外のクラブ活動もあるが、緊急事態宣言が解除された後どれから再開すればいいか話し合った結果、利用者の参加希望が多い音楽療法から再開した。利用者からも『音楽はいつあるの?』という声があったので再開出来て良かった。」

「利用者にはマスクをつけたり、間を取ったりして十分楽しめないところもあるが、楽しみにされている方が多かったので良い時間だと思う」

コロナ禍の為、家族との面会制限、外部からのボランティアの受け入れ中止の中、利用者が情緒不安定になり「大きな声」を出したり、自分の車いすで移動したり、立ち歩いでは「そわそわ」と落ち着きのない状態がみられ、セラピストの顔を見るや否や「うたう」「歌うの」との声が聞こえた。利用者の精神的安定を確保するために「音楽療法は続けたい」との施設側の意向によりセッションを継続することとした。しかし、コロナ感染防止のため「大声を出さない」「対面会話はしない」「身体接触はしない」という今までの手段方法と違った対応の必要があった。セラピスト自身にとって経験のない事態なので、自問自答するしかなかった。施設から「この利用者は守られている」との言葉を受け、セラピスト自身は勿論、家族等を含めた感染防止に努めた。

セッションにおいて「マスク」「手洗い」「消毒」「検温」は勿論、楽器は極力使用せず、ボディーパーカッションに切り替え、歌唱の際の歌詞は「クイズ形式」にして思い出してもらい、踊りをふんだんに取り入れながら体力維持に努めるなど試行錯誤した。その中でコロナ禍以前の表情が見受けられないことから、「笑顔」を見せるためにマスクを外して笑顔を見せたところ、表情が柔和になるだけでなく、落ち着きや行動面での安定が確認できた。「歌う」こと、「体を動かす」こと、「笑顔」を見せることが特に大切と感じている。

新型コロナウイルス感染拡大前は月2回、3フロアの入居者合同で約30人の大集団セッション、認知症に特化した小集団セッション、個人セッションを同日に実施していたが、3月から全てのセッションが中止となった。6月初めに施設から「段階的に解除したい」とのことで、双方ができること、しなければならないことを提案し、大集団のみ7月に再開となった。フロア移動禁止のため各フロアで月1回、計月3回のセッションとなった。

・入館時には手指消毒、着用してきたマスクを新しい物に交換、検温。普段は土足だが用意された消毒済のスリッパに履き替える。

・半円形であった形態も対面式に変更され、音楽療法士と対象者の間には大きなアクリル板の衝立が数枚置かれ、両者の出入りにおいても接点がないよう徹底。40名程入れる会場に20名以下の参加とする。

・音楽療法士はマウスシールドを着用した上にフェイスシールドを着用、消毒して持参した楽器の配布回収は職員が行う。

衝立で隔離され、対象者の近くへ行けないが、長年実践をしている施設で、3か月毎のカンファレンスを通して、目的やそれぞれの活動で意図していることを理解してくれている職員が（補助役として）必ず配置され、ある程度の活動はできている。

また施設内は安全な場所という位置づけのため、入居者はマスクを使用しておらず、その中に入館できる者としてかなりのプレッシャーであり、家族も含めて緊張の毎日である。

【訪問看護領域】

訪問看護ステーションからの依頼を受け、個人のお宅を看護師と一緒に訪問して月1回の音楽療法を始めて1年が過ぎようとした頃、新型コロナウイルス騒動に巻き込まれました。4月～6月休止後7月から自宅、ステーションでの検温、訪問先での手洗い、うがいをした後、フェイスシールドをつけて再開しました。2～3軒のお宅に順番に伺い30分～1時間、対象者は12歳～74歳、人工呼吸器・気管カニューレ・胃瘻装着されている方や、終末期医療に入られている方、精神疾患の方などですが、それだけでなく日々生死に向かわれている方々への感染防止策に悩みました。楽器は重複しないように分けて用意して、フェイスシールドのシールドも対象者ごとに付け替えています。寝たきりの方であったり、介助なしに普段通りに生活されている方だったり様々ですが、ご家族や看護師の協力を得て、なるべく接触しないように心がけています。コロナ禍での音楽療法に不安がある中で、訪問看護ステーションスタッフの支え、ご家族の強い要望があって再開できていると感謝しています。同行される看護師の笑顔に応援していただきながら、注意を怠らないようにそれぞれの方に寄り添っていきたくと思っています。

【成人領域】

対象者は主に自閉傾向で言語コミュニケーションは難しく、こだわりを持っている30～70代の男女8人で週1回60分の集団セッションを実施しています。

施設は開所時から地域の人々との交流に重点を置いており、20余年の積み重ねで季節の様々なイベントやクラブ活動が充実していて入所者の楽しみになっています。しかしコロナ禍により3月下旬から施設のイベント、歩行クラブ以外のクラブ活動は全て中止となり、緊急事態宣言後、音楽療法も中止になり、施設内での家族の面会も出来なくなっています。

自粛生活が続く中で、対象者に手指消毒はできてもマスク着用はできない状況を踏まえて、施設が感染防止策としてホワイトボードの白板をアクリル板に付け替えて、音楽療法士と対象者の間に設置、音楽療法士はフェイスシールド又はマスク着用するという態勢を提案され、7月下旬から音楽療法が再開しました。

窮屈な日常を送る入所者の為に比較的人数が少ない音楽療法に再開の可能性を感じ、音楽療法士の雇用を守ろうと考えたとの施設長の言葉に感謝したいと思います。現在3カ月の空白を埋めるようなセッションを続けています。マスク着用の私は以前の2倍以上声を出さないと対象者に届きません。施設内でいつもの響き、歌声、音が流れることに安堵感が広がっていると感じています。

障害者自立支援事業・福祉事業型専攻科（特別支援学校高等部あるいは高等学校卒業後の2学年制の学園、以下学園と表記）での月1回の音楽療法は、緊急事態宣言から6月までは休止、7月から再開となった。学園では、登校時の学生の体調・体温の確認、手指の消毒、マスクの着用、社会的距離の意識付けや教室の換気などが徹底されている。

再開にあたって、使用する楽器や用品の消毒、ハンズフリーマイクの使用など、音楽療法士の行う基本的な感染防止対策の他、距離を取っての座席設定、歌唱や楽器等の活動内容の制限について文書に明記して学園に伝え、協力を仰いだ。学園からは、一番広い多目的教室を使用すること、まずは学年毎の少人数での実施をご提案いただいた。

再開当日は、会議机をひとり1台ずつ使用しての着席とした。参加者同士の距離を確保できる一方で動きは制限されるため、立ち上がり行うJ-POPの曲を使ったストレッチを毎回組み込んだ。

学生たちは、ストレッチをしながら歌を口ずさんだり、空いたスペースを見つけてダンスを踊ったりするなど、環境に順応して楽しもうとしているように感じられた。また、自ら社会的距離を意識して、楽器の選択や返却もスムーズに行っていた。今後は机の配置など工夫して、少しでも安全かつ充実した音楽の時間になるように努めたい。

【子ども領域】

児童分野の複数の施設でセッションをしている。対象者が重度重複障害や知的・発達障害などで、基礎疾患や安全の面から、感染症対策としてセッション前後に楽器をアルコール、塩素消毒し、インフルエンザ等の流行時に音楽療法士がマスク着用することも以前から行っていた。発語が難しい対象児もいるため、歌唱活動はしていない。コロナ禍で変わったことは、

・「1セッションにおける参加人数を減らす」それに伴いグループの数を増やし時間を短縮した。一つのプログラムに課題を複数盛り込む等の工夫が必要となった。

・「一人ずつ用意したカゴの中から楽器を使う」これまでは楽器ごとにカゴに分けていたものを一人分ずつ用意するようにした。

・「身体接触をなくす」手をつないだり、隣へ楽器を受渡ししたりしない。

その他、施設毎の状況にあわせて対策を練った。セッションを再開するにあたり、事前に可/不可を細かく確認する会議を行った。

普段から顔を寄せ合って一緒に遊んでいる様子を見ると、セッション時だけのソーシャルディスタンスも無意味に思う。対象者間の感染より、外からウィルスを持ち込まないことが大事と強く思う。

私がお世話になっているほとんどの施設では、これまでのプログラム内容や感染症対策の点からみて、音楽療法がハイリスクであるとは考えていない、と言ってくれている。

20周年記念式典のお知らせ

日時：2021年6月13日(日) 13:30~16:00
場所：ANAクラウンプラザホテル神戸 10階 The Ballroom
講演と演奏：智内威雄氏/左手のピアニスト

<講演> 「苦難の歴史を乗り越えて開かれた未来に」

<演奏> 北爪道夫「即興曲」、宮沢賢治「星めぐりの歌」、バッハ (ウイゲンシュタイン編曲)「シャコンヌ」、その他

※詳細は最新の当会ホームページをご覧ください。

information

♪ 音楽療法の実施や講演依頼等 … 事務局へお問い合わせください。

● お問い合わせ先 E-mail : jimukyoku@hmta.jp Fax : 078-261-9602

♪ 補助事業(音楽療法普及・定着強化事業)のご利用

◇お試し体験補助事業 … 音楽療法を本格導入する前に体験して頂けます。

◇定着促進事業 … 月2回以上実施の医療・福祉・教育施設等に対して導入初年度の音楽療法の実施経費の一部を支援させていただく制度です。

令和3年度「音楽療法普及・定着強化事業」の実施の有無は、決まり次第当会ホームページに掲載いたします。詳細は、当会ホームページでご確認ください。

● お問い合わせ先 E-mail : sokushin@hmta.jp Fax : 078-261-9602



一般社団法人
兵庫県音楽療法士会

〒651-0062

神戸市中央区坂口通2丁目1-1 兵庫県福祉センター6F

一般社団法人兵庫県音楽療法士会事務局

TEL (078)261-9601 FAX (078)261-9602

E-mail : jimukyoku@hmta.jp

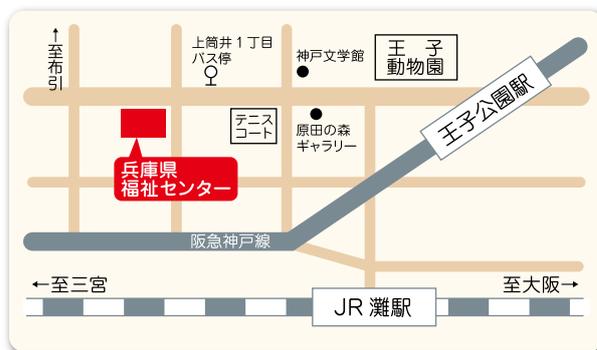
【アクセス】

JR 灘駅・阪急王子公園駅下車徒歩約10分

神戸市バス(90・92系統)上筒井1丁目バス停下車すぐ

【ホームページ】

<https://hmta.jp>



ホームページでは、音楽療法に関すること、会の活動や公開研修会の案内などをご覧ください。

<新理事体制のご挨拶>



広報部長 並河靖枝
事務局長 増井まり子
理事長 鞘本尚子
副理事長 三善恵子
財政部長 夏川美知子
倫理部長 野田尚史
企画部長 岸田由起

6月に理事経験者4名の再任と私を含めて新任理事3名の7名での船出となりました。しかし本年度の予定はコロナの影響でほとんど中止せざるをえなくなりました。何とか研修会開催をと、今後の研修会のあり方をアンケート調査したところ、オンデマンドでの研修会を望む声が一番多く、まずはオンデマンド実施に向かって理事全員で知恵を絞っています。

また皆さんと集まれる日が来ることを信じて、新理事として今出来ること、すべきことに向かって試行錯誤しながら頑張っていきたいと思います。(副理事長 三善恵子)



今号は、「新型コロナ感染」でお伝えできる内容が少なく、コンパクトになりました。その中、広報誌編集にご協力くださった方々に心より感謝申し上げます。今年は当会発足より20年を迎え、記念誌を作成中です。今一度、兵庫県とのあゆみを感じ、今後も状況に応じて音楽療法の普及・定着を目指し努めていきたいと思っています。(広報部 並河靖枝)